



花馬祭り

はな うま

◆長野県無形民俗文化財◆

信州南木曾



南木曾町田立・五宮神社

例祭日 毎年10月第1日曜日

行列日程 午後0時30分 田立花馬の里
コミュニティ広場出発
午後1時40分 五宮神社到着



長野県冬期オリンピック閉会式に出演(平成10年2月21日)

〈お問い合わせ〉
田立花馬祭り保存会

南木曾町教育委員会 TEL 0264-57-3335(代)
〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻 52-4 南木曾会館内

(一社)南木曾町観光協会 TEL 0264-57-2727(代)
〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻 2196-1



〔電車〕JR中央本線 田立駅下車すぐ

〔自動車〕中央自動車道中津川ICから国道19号線を北上、20分



田立 花馬祭り

はな
うま

◆長野県無形民俗文化財◆

花馬祭りは、南木曾町田立五宮神社のお祭り、毎年10月第一日曜日に、豊作・安産・家内安全などの諸願成就を感謝して行われます。

さて五宮神社とは、その名の通り田立の五つのお宮が合祀されて、明治41年(1908)にできたものです。五つのお宮とは、南宮社(元組)・大平社(向粟畑)・八幡社(粟畑)・熊野白山社(大野正兼)・神明社(塚野)のことで、五宮神社は南宮社だったところに置かれました。

花馬は、湯立てを行っていた神明社を除く四社で行われてきたもので、その始まりは田立の古い文書に「享保2年(1717)、此年南宮産神花馬初テ執行」(津羽沢小幡家文書)と書かれていることから、今から300年程前から伝わっていることがわかります。その後の宝暦12年(1762)の記録には、この年は大早魃(たいさいぼつ)の年で、旧暦の4月26日から5月20日まで、村中で種々の雨乞いの行事を行った中で、5月17日には12頭の花馬を出して村内を練り回ったことが書かれています。

五宮神社になってからは、花馬は3頭と決められました。先頭馬には神が宿る(ひもろぐ)神籬を、中馬には豊作を現わす菊を、後馬には南宮社社紋の日月の幟を立て、そのまわりに五色の色紙によって稲穂を形取った竹を365本ほど差しまわしています。花馬の名称はこうした飾りから生まれたものです。



なお、南宮社の社紋は南北朝の頃、後醍醐天皇の皇子宗良親王が足利尊氏の軍と各地で転戦し田立の南宮社で祈願した際に、親王の紋を下さったものと言い伝えられています。

花馬の行列は、五宮神社の幟を先頭に、各地区の五色の幟が続き、そして50人ほどの若者による笛、太鼓(はやしかた)の囃方が、最後に3頭の花馬が進みます。五色(青・黄・赤・白・黒)の幟は、それぞれ、明るい空・豊かに稔った五穀・太陽・澄んだ水・肥沃な耕地を示しており、五穀豊稔とそのよき天恵に感謝を表しています。

行列は、田立駅前の花馬の里コミュニティ広場を午後0時30分に出発し、神社までの2kmほどの道をゆっくりと進んでいき、神社へは午後1時40分に着きます。神社に着き、行列が境内を3回廻り終ると、境内を埋めてみていた人々は、一斉に馬に飛びついて花を奪い合います。取った花を家に持ち帰って、家の入口にさすと家内に厄病神が入らない、田畦にさすと虫除けの守りになるといわれています。特に神籬(ひもろぐ)を取った人には最大の幸福があるといわれています。

花馬祭りは、昭和49年7月12日には南木曾町無形文化財に、平成5年2月18日には、長野県無形民俗文化財に指定されました。

また、花馬の馬は、木曾に古来から伝わる木曾馬で、県の天然記念物に指定され、地元で神馬として飼育されています。

※神籬(ひもろぐ)とは、神道において神社や神棚以外の場所において祭を行う場合、臨時に神を迎えるための依り代となるもの。

